別紙

令和３年度　学力向上プラン

学校名　中央区立晴海中学校

学校の教育目標

個人の尊厳を重んじ、平和で民主的な国家及び社会の形成者としてふさわしい、心身ともに健康で、豊かな人間性・確かな学力・創造性を備えた生徒の育成を目指す。そのために本校の教育理念として「共生」を掲げ、以下の目標を設定する。

教育理念　共生　LIVE TOGETHER MAKE A COMMUNITY

教育目標　○健やかな人　○思いやる人　○考える人　○創造する人

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

・生徒一人一人に応じた指導の充実　・学習意欲の向上と学習習慣の定着　・質問教室等を活用した学習機会の充実

・ＩＣＴの活用と情報教育の推進　・国際性を育む教育の推進

令和３年度「学習力サポートテスト」や令和３年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	生徒の学力の課題	主な要因
国　語	1年生では、「漢字の読み書き」「説明的文章の読解」に課題が見られた。2年生では、「文章表現」に課題画見られた。3年生では「説明的文章の読解」の正答率が他と比べてやや低い結果が見られた。	１年生は、文章で中心的な部分の読み取りがまだできていないと考える。2年生では、古語の意味と内容理解が主な要因であると考える。3年生では読み取った内容をまとめることや要点を捉える練習が必要である。
数 学	1年生では、「数学的な技能」に課題が見られた。特に場合の数に関する問題を苦手とする生徒が見られた。2年生では、「数学的な見方・考え方」に課題が見られた。特に平面図形に関する問題を苦手とする生徒がいた。3年生では、確率に関する問題を苦手とする生徒が見られた。	確率が苦手な生徒がいる要因としては授業でしっかり定着まで確認できていないことが挙げられる。また２年生の「数学的な見方・考え方」に関しては単元の導入や章末でのじっくり考える問題を全教員が出題できていないことが挙げられる。
社　会	１年生では、歴史的分野に課題が見られた。特に「安土桃山時代～江戸時代」の内容別正答率が低かった。２年生も同じく歴史的分野に課題が見られた。特に「古墳時代～平安時代」の内容別正答率が低かった。３年生では、地理的分野に課題が見られた。特に「日本の地域構成」と「身近な地域調査」の内容正答率が低かった。また、全学年を通じて全体の正答率に対して基礎的な知識の正答率がやや低い傾向にある。	既習事項の中でも比較的最近学習した内容は正答率が高いが、前学年の学習内容が確実に定着していないことが挙げられる。毎時間の授業や単元ごとの振り返り、継続的な小テスト等の実施が全学年で徹底できていないことが挙げられる。
理　科	1年生では、全国平均を基礎で2.2ポイント下回ったが活用では3.2ポイント上回った。よって基礎的な語句の定着が甘い部分が見られた。2年生では、合計点では全国平均を上回ったが化学分野で1.3ポイント下回ったため、特定の分野の定着に課題が見られる。3年生では、生物・物理において苦手が見られた。	・入学時に既に理科に対する苦手意識をもつ生徒がいる。 ・理科で必要な予想する力、考える力、分析する力が充分身についていない生徒が多い。
英　語	２年生では、情報に基づいて書く英作文において無解答率が9.9%、与えられた情報に基づいて解答しているが、軽微な誤りがある準正答が38.5%、また、与えられた情報に基づいて解答しているが、3 単現の誤りがある誤答が5.5%見られた。	書くことや記述を苦手とする生徒がいるため、授業でのより充実した活動が求められている。基礎知識を理解した上で ALT を活用し、自分の考えや意見などを書いてまとめる場面を授業内で充実させる必要がある。

保健体育	握力調査は２年男子を除いて、東京都平均を下回る結果が見られた。他の調査は運動調査を制限していたため実施していない。（握力のみ）	運動機会の減少が主な要因と考える。また今年度の運動制限でも体力の低下も懸念される。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	・基礎・基本を定着させ、それを活用して思考力・判断力・表現力等を育てるための授業改善を継続し、授業評価で基礎･基本の定着について８０％が肯定的に捉えることを目標とする。
②授業改善	・マークシート方式の生徒アンケート、「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や授業評価等に基づく授業改善を行い、全教科で都の平均を上回ることを目標とする。
③教員の指導力	・特色ある教育活動の「確かな学力の育成」を行うために、各教科等を有機的に関連付けた学習活動を展開し、自ら学び考える態度や確かな学力を身に付けさせる。授業アンケートで「授業規律が確立されている」「内容や構成は分かりやすく工夫されているか」の項目で、“あてはまる”・“ややあてはまる”の合計が８５％を越えることを目標とする。
④家庭との連携	・家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多いので、「生徒の学習に関する意識調査」を行い、学習力サポートテストの各種データとクロスチェックの上、課題を明らかにする。また、個々の生徒のプロフィールを把握した上で適切な指導・助言を行い、生徒一人一人の学習意欲の向上を図る。 学校評価において、「通知表を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に行っている」の項目について、“あてはまる”・“ややあてはまる”の合計が８５％を越えることを目標とする。
⑤体力向上	・新体力テストでは、全学年全国平均以上を目標とし、授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行う。運動会、連合水泳・連合陸上、東京駅伝に向けた、体育的行事との取組に関連付けて、生徒の体力向上の意識を高めていく。

【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	・ICT を効果的に用いながら教科横断的・縦断的な指導計画を策定し、学習力サポートテストや生徒の授業評価等に基づく授業改善、校内研修を軸とする授業研究を進める。少人数指導、朝学習、放課後質問教室、夏季補充授業などで基礎学力の定着を図る。
取組Ⅱ	・各教科で言語活動の充実を図り、教科等の相互関連性をおさえる。また、基礎・基本を活用して思考力・判断力・表現力等を培う学習活動を行う。総合的な学習の時間を軸にオリンピック・パラリンピック教育を通した共生の精神を学ぶ機会を設定し、行事等において創造的な活動に取り組む。
取組Ⅲ	・学習意欲を高め、学習習慣の定着を図るため、学習力サポートテストの結果や I-check、都の調査とも関連付けて、個々の生徒を把握し、それを踏まえて各生徒への適切な助言・指導を行う。それを面談等で機会を見て設定し、保護者と共有する。

②授業改善	
取組Ⅰ	・新学習指導要領を踏まえた年間計画を通して、教科横断的・縦断的な教育計画を見直す。 ・各教科で学習した内容が他教科の学習に生かせるような横断的な取組を強化する。
取組Ⅱ	・確かな学力を身に付けさせるために、各教科で基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図るとともに、それを幅広く活用させる学習を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ・５教科については、各授業、朝学習において基礎基本の定着となる取り組みを行う。
取組Ⅲ	・デイリーライフを効果的に活用していく。ＩＣＴ支援員の支援の基、ＩＣＴ機器の活用を進め、複数の資料を関連づけて多角的・多面的に考えさせる学習活動を一層工夫する。 ・表現力の育成を図るためにグループ学習、ペアワークやグループワークの一層の充実を考案する。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	・ICT 機器を活用した授業を推進し、生徒の学習活動を充実させるための指導力向上に取り組む。 ・考えさせる学習活動より充実させ、主体的で対話的な深い学びの実現に向けた授業改善を図る。
取組Ⅱ	・区非常勤講師の活用、少人数指導や TT による指導を実践し、個に応じた学習の効果を上げる取組を推進する。 ・主幹・主任の教諭による若手教員の OJT に取り組み、指導力の向上を図る。 ・授業力向上週間で教員同士の授業見学を行う。
取組Ⅲ	・表現力を高める指導として、グループ、ペアによる学習だけでなく、ＩＣＴを活用し表現力を高める。 ・総合的な学習の時間に事前学習・事後学習を班単位で発表させる取組を各学年で設定し行う。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	・家庭学習の習慣を定着させるために、適切な学習課題を工夫し、関する家庭への啓発を継続して進める。 ・「個人カルテ」をもとに、三者面談を行い、家庭との連携を深め、生徒一人一人に応じた指導・助言を行う。
取組Ⅱ	・毎日、取り組んでいるディリーライフや学校だより、学年通信や子ども安全安心メールを通して、家庭との連絡を密にし、学校で行われている教育活動を密に伝える。 ・運動会、文化祭の案内や、PTA バレーボールの参加を通じて学校への理解を深める。
取組Ⅲ	・土曜公開日を活用し、教育課程説明会、部活保護者会、シラバスの説明会、食育講演会や平日の給食試食会を実施し、学校教育への幅広い理解を深める。 ・放課後の補習や質問教室、夏季講習会への参加を呼びかける。

【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	・各教科等で言語活動の充実に取り組んだ。教科等の相互関連性をおさえた年間指導計画を作成し、基礎基本を活用した思考力・判断力を養うことができた。	・各教科等でのグループ学習による話し合い活動やまとめの発表を行う際に、ＩＣＴをより効果的に活用し、言語活動を中心とする表現力を高める指導を進めていく。
②授業改善	・生徒アンケートをタブレット端末で行うことでデータ共有を容易にした。また、学習力サポートテスト等や生徒の授業評価推進プランに全教科で取り組んだ。日頃の授業では、言語活動の充実に力を入れることや「晴海中ミニマム」を行い、共通実践することを再確認し進め、全教員が授業改善を行った。	・生徒アンケートを個人で見るだけでなく、教科や学年で反省点を共有し、研修に繋げていく。全教員が授業を見合う機会を設定する。授業研究を月例で行っていく。その後の研究協議では、分科会ごとの意見交換・ワークショップ型研修を行い、分科会での意見等を、発表し合うことで、意欲的に授業改善を進めていく。
③教員の指導力	・授業改善プランを通して、全教科で授業改善に継続して取り組んだ。また、全教員、全生徒にタブレット端末が配備されたことにより、ICT 機器の活用が多くされた。考えを共有し発表することが容易になったことで学習活動が充実させることができた。	・言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等の育成と学力の向上に全教科で取り組み、授業改善を図る。また、区非常勤講師の活用、少人数指導や TT による指導を実践し、個に応じた学習の効果を上げる。
④家庭との連携	・学校だより、学年通信、ホームページに加え、安心安全メール、タブレット端末のアプリケーションを活用したことで、よりスピーディに学校の取組を発信できるようになった。	・今後は Google　Forms を活用し、保護者アンケートや出欠席の連絡や集計を行う。また、学校公開等で特色ある教育活動をアピールするとともに、地域性や保護者のニーズを理解できるよう情報交換していく。
⑤体力向上	・新体力テストでは、授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行うことができた。オリンピック・パラリンピック教育に関連付けて、生徒の意識を高め、体力向上に繋げた。	・体育的行事の実施が難しい中、基礎体力向上のための密にならない運動やスポーツを多く取り入れ、体力向上に努めた。今後は情勢を鑑みて、部活動や体育的行事を生かしつつ生徒の体力向上に力を入れていく。